



菅波 茂

06年8月にAMDAが
国連経済社会理事会総合
協議資格団体に認定され
た効果が、09年になって
具体化してきた。

3月はスリランカ・コ
ロンボで開かれた国連経
済社会理事会とスリラン
カ政府合同主催の閣僚級
会議に、翌月は中国・北
京で開催された同理事会
と中国政府の閣僚級会
議、さらに同月、スイス

・ジュネーブであった世
界保健機関(WHO)に
よるGOARN(Global
Outbreak Alert
and Response
Network※)
パートナー会議に招待さ
れた。

AMDAの過去25年間
の実績と総合協議資格が
なければ参加できなかった
会議である。国連、WHO
および各国政府高官

と意見交換や人事交流で
きる良机会である。A
MDAは創設以来、A
MDAを必要とする人たち

のために現場で知恵を出
し、汗をかいてきた。一
方で、国連や国際機関の
会議における政策形成に
関与する機会とその重要
性も認識できた。AMD

A創設25周年にあたる09
年は、AMDAの歴史上、
大きな転換期になるとつ
くづく感じた。支援者や
関係者の方々にあらため
て感謝したい。

今年4月ごろから、メ
キシコ発の新型インフル
エンザ(H1N1型)が、
フェーズ5から「パンデ
ミック」のフェーズ6に
格上げされるか否かで世
界を席巻する状況になっ
ている。WHOが開催し
たGOARNパートナー

会議に参加したのは、ま
さにフェーズ5引き上げ
の2週間前だった。
この会議は、世界規模
で発生する感染症に警報

国連経済社会理事会総合協議資格の意義

を発し、対処するネット
ワークであり、02年から
03年にかけて中国を中心
に発生したSARS(重
症急性呼吸器症候群)対
策で大活躍をして世界に
その存在感を知らしめて
いる。鳥インフルエンザ
も議論の重点項目だっ
た。ちなみに、世界各国
から100人近くが参加
した。日本からは5つの
大学、国立感染症予防研
究所、長崎大学熱帯医学
研究所とAMDAの8団
体だった。日本人医師お
よび研究者だけでなく、
世界のトップレベルにあ
るNGOとの交流も有意
義だった。

このような会議では思
わぬ人達との出会いもあ
る。北京での会議では日
本の厚労相にあたる衛
生部部長主催の晩餐会
で、モンゴル政府保健
省の医師達とテーブルを
共にした。前副大臣は大
阪大学衛生学教室で博士
号を取得している。局長

の時に朝青龍を明徳義塾
に連れて行き、副大臣の
時に横綱に昇進した朝青
龍に表彰状を渡したと
のことだった。この会議
で隣席にいた中国医師会
海外担当の劉氏から、脳
神経外科レベルの高いハ
ンガリー医師会と積極的
に交流プログラムを推進
しようとしていることを
聞き、各国なりに独自の
動きがあることも再認識
した。知らない人達の中
で、ミャンマー保健省
のウ・アウン・チャイン
局長とはスリランカに続
き、北京の会議で再会し
て急速に親近感が増し
た。お互いに人の子であ
る。多くの人たちとの交
流は将来の貴重な財産で
ある。

AMDAは「救える命
があればどこへでも」の
確な情報把握と、地球規
模での迅速な対応を目的
とする世界の研究機関及
び専門家を結ぶネットワ
ーク

(AMDAグループ代表)

※GOARNは感染症
の突発的流行に関する